

共同創造で作る高校生のためのアンチスティグマ資料

| 鈴木 道雄 Michio Suzuki

2018年に告示された学習指導要領では、高等学校における保健体育教育に新たに精神疾患に関する内容が含まれ、2022年度入学生からそれに基づいて教育が実施されている。これを機に、本学会アンチスティグマ委員会では、保健体育の授業において教師と生徒が使用できる資料を学会として作成・提供することを決定した。具体的には、教科書に病名が登場する精神疾患（アルコール・薬物依存、統合失調症、うつ病、不安症、摂食障害）について、当事者のインタビュービデオを作成することとした。ここではその作成経過を紹介したい。

作成にあたっての基本方針は、生徒が精神疾患とそれに対するスティグマの存在を理解し、social inclusionについて考える力をつけることを支援できるように、当事者がスティグマを乗り越えた体験やリカバリーについて語る姿を示すことである。多くの議論の後、疾患ごとに数名ずつの委員から成る小グループに分かれて連絡や調整を開始したが、インタビューに応じていただく当事者の選定には苦労した。委員が主治医となっているような方は避け、結果的に各疾患の当事者団体などから6名の適任者を推薦・紹介していただいた。各小グループが中心となり、それぞれの当事者（出演予定者、当事者団体の担当者）に企画についての具体的な説明と意見聴取を行う説明会を計7回開催した。説明会では、予定質問に実際に回答してもらい、いただいた意見や回答内容に基づいて委員会で検討を重ねた。それらを経て、最終的に確定した6つの主要質問項目は以下の通りである。

- 1) 自分が病気にかかると考えたことはありましたか？
ある場合は、いつ頃からですか？
- 2) 最初は、どのような状態で病気が始まったのでしょうか？
前兆や自覚症状はありましたか？
- 3) 病気にかかる前やかかってから周りに相談できる人はいましたか？
いた場合は、相談したことが役に

ちましたか？
いなかった場合は、誰に相談した
かったですか？

- 4) 病気になって、誤解・いじめ・偏見（スティグマ）
などで困ったこと、苦しかったことはありました
か？
- 5) 社会や周りの人から病気の人に対してどのような支
援や配慮があるとよいと思いますか？
- 6) 高校生に向けてのメッセージをお願いします。

映画『梅切らぬバカ』の監督である和島香太郎氏に撮影を依頼し、若手委員がインタビュアーを務めて順次撮影を行った。撮影後には仮編集した映像について、委員全員に当事者も交えて確認・検討し、さらに当事者とのディスカッションを小グループで行う機会を別に設けた。本稿を執筆している現在は、最終的な映像を完成させつつあるところである。

作成の過程ではさまざまなハプニングもあった。法的・倫理的問題などを整理・検討するために相談した法曹関係者から、学会による当事者ビデオ作成の意義自体を否定され、面食らったこともあった。出演を予定していた当事者の体調悪化により、撮影が頓挫しかけたこともあった。また、委員として活躍されていた長徹二先生が、2024年4月に急逝されたことは痛恨の極みであった。

このインタビュービデオは専ら高校の授業において用いられるためのものだが、2025年6月の第121回学術総会（神戸）において、会場の一部屋を借りて上映し、会員諸氏にも供覧する予定である。多くの方にご覧いただければ幸いである。

最後に、このビデオが十分に活用されることを祈念するとともに、出演してくださった当事者をはじめとしたすべての関係者にこの場を借りてお礼申し上げたい。